

ケーブル比叡から大原戸寺

京都府山岳連盟トレイル委員会

ケーブル比叡からは京都一周トレイル北山コースとなる。トイレはしばらくコース近辺には無いので、ケーブル駅のトイレで用を足しておこう。ケーブル駅の南側は京都市内、ケーブル駅の北側からは北山方面の好展望地である。



標識北山1 ケーブル比叡

ケーブル終点駅前の標識北山1から、しばらくは地道だが業務用の自動車道の登りとなる。比叡山スキー場跡が標識北山2で閉鎖され今はもう一面ススキの原となっている。

トレイルコースはゲレンデ跡の左端に沿って山道を登る。標識北山3で再び広い林道となり緩い下りとなる。北山3には北山2から標識の上部、旧ゲレンデ中央付近の横断路からもたどれる。北山3からは、これから向かう横高山、水井山から北山方面の展望が広がる。



標識北山2 スキー場跡

しばらく歩き標識北山4で石仏と古い五輪塔を道端に見ると、左手に京都北山方面の眺望が開けた絶好の休憩場所がある。天候が良ければ遠く丹波高原の山波まで見通せる。ベンチもありしばし眺望を楽しもう。



コースから大原方面展望

休憩場所から山側に登る分岐は、バス停もある頂上駐車場を経て約20分で比叡山頂（大比叡 標高848m 一等三角点）に到る。

緩い下りが続き、標識北山5「鎮護国家の碑」を経て、ドライブウェイに架かる歩道橋の手前が標識北山6、直進すると延暦寺根本中堂まで1.2km程度である。200mほど先に千手井（せんじゅのい）がある。比叡山随一の霊泉で弁慶水ともいう。平家物語には清盛の熱病の熱を冷ますのに、この霊泉の冷水を水槽に張って清盛を浸らせたとある。



水井山、横高山を望む

歩道橋を越えた所が標識北山7で、正面のお堂を山王院といい、弁慶が剛力を授かるに千手井の水を汲んで本尊千手観音に祈ったと伝える。



浄土院に下る石段

山王院の前を左折し段差が大きい石段を降りると、正面が伝教大師最澄の御廟であり、比叡山延暦寺では最も清浄な聖域である浄土院である。

『浄土院：比叡山に修業する僧に「比叡三地獄」と呼ばれる行がある。一には法華経をはじめひたすら膨大な経典を繰返し読む、横川元三大



師堂の看経地獄。二には「千日回峰行」千日の間、毎日欠かすこと無く三十キロメートル、比叡山中の霊地、霊石、零木をひたすら礼拝しながら歩く修業で、回峰行、礼拝行ともいわれ、途中で挫折したときは懐剣で自裁するか、腰紐で首を括るといふ毎日が死と隣り合わせの回峰地獄。そしてもう一つがここ浄土院の掃除地獄といわれる。



浄土院で伝教大師最澄に仕える僧を待真と呼び、午前三時に起床、厳しい戒律のもとに「比叡四名物」の「論、湿、寒、貧」に耐え、最澄が比叡山中で修業した十二年間にちなみ、同じ年数を山から降りることなく浄土院に籠るのである。そして「依身より依処」として清浄な環境を重視した最澄の教えに従い、参道はもとより回峰行の山道まで毎日々掃除されるのである。境内を通過するトレイルのコースも含まれているので心して歩きたい。』



浄土院前を左折し新しく整備された参道を釈迦堂に向かう。標識北山 8 で広い参道と別れ、トレイルコースは右下の旧道に降りる。広い参道を直進すると、比叡山西塔の拝観券検札場で止められるから注意。旧道に降りると、すぐに新しい延暦寺業務用の道が、折り返すように右下に分岐しているが入らないこと、前方に見える「椿堂」に向かい、「椿堂」の手前で右に分岐する小径に入る。木立の中のしっとりとした道で、標識北山 9-1 で元の広い参道に合流すると、すぐに標識北山 9-2 の釈迦堂である。手前の参拝者用トイレは新しくリフォームされた。



『釈迦堂：転法輪堂ともいい、現在の比叡山では最古の建造物。朱塗り七間四方銅版葺きの入母屋造りの堂々とした建物で、信長の比叡山焼き討ちの際に焼亡したが、後に秀吉の指示で園城寺(三井寺)の金堂を移築したものと伝える。釈迦堂の正面向かいの石段を登ると、参道の上に掛る高欄で結ばれた常行堂、法華堂という相似た堂が「弁慶のにない堂」である。』



比叡山では根本中堂を中心とした東塔に対し、釈迦堂を中心とした地域を西塔といい、主要な修業施設が集まっている区域である。比叡山観光客の多くはここで引き返す。



トレイルコースは標識北山 9-2 から釈迦堂の右側参道を居士林道場跡方面に向かう。

『居士林道場：一般の人も受け入れて頂ける宿泊研修道場であったが、残念なことに 2018 年の 21 号台風のため損傷を受け取り壊された。比叡山西塔で最北に位置する堂塔であった。』

トレイルコースは居士林道場跡から、左にドライブウェイに繋がる自動車道と別れ、標識北山 10-1 に従い直進する道を登る。



伝教大師像

ドライブウェイ下のトンネルを潜り、標識北山 10-2 からドライブウェイと並行する修禅峰道（峰道）に入る。

この辺りは関西では数少ない樅（モミ）の原生林で、路傍には石塔や石仏が佇み心和む気持ちの良いルートである。

やがて峰道は標識北山 11-1 で黒谷青龍寺にいたる林道と交差する。黒谷青龍寺は「太平記」にもその活躍が述べられている円観上人の修業地であり、黒谷溪谷の上部は比叡山鳥類繁殖地に指定され、度々探鳥会も行われている。



二河の白道

トレイル地図には表示されていないが、黒谷林道分岐からドライブウェイを注意して横断し、右上に登れば「比叡山峰道レストラン」がある。飲料の自動販売機やトイレも利用できる。

『比叡山峰道レストラン：駐車場には伝教大師の大きな御尊像が立っている。台座を入れた高さ 11 メートル。大師が比叡山を開かれてから 1200 年目の昭和 62 年(1987 年)に建てられた。この年には、世界の諸宗教者が集まり、教義をこえて世界平和のために祈る「比叡山宗教サミット」が開催された。同サミットを継ぎ平成 2 年(1990)から大師ご尊像前で、世界平和・除災招福を祈願する「比叡山大護摩供大法要」が営まれ、毎年 3 月 13 日には約 20 万本もの護摩木が焚かれる。尊像のそばに日本ウオーキング協会が建立の、皆で歩いて世界平和を願うという「ウオーキング祈念碑」である。』



玉体杉

黒谷青龍寺への林道を過ぎ、ひと登りすれば峰道はドライブウェイと並行して歩くようになる。この辺り「二河の白道」という。東岸（東塔）から、浄土の西岸（横川）に向かって煩惱にとらわれず、極楽往生を願い清浄心で白道を進めば、安楽の世界に至ることができるという平坦で優しい道である。



雪の玉体杉から比良連峰

標識北山 11-2 を経て、やがて峰道が小高い高みに上り視界が開けると玉体杉である。この峰を「阿字休息峰」いう。展望の良い絶好の休憩場所で蓮華を象った石の腰掛があり、回峰行者はここから天皇の坐す京都御所（玉体）を拝するのである。玉体杉は古木ではあるが決して大木ではないものの、なぜか遠く京都市内からもそれと確認できる。



標識北山 12 峰辻

玉体杉を下ると石仏数体が座す標識北山 12 の峠に降りつく。峠を峰辻といい、地蔵様を「せりあい地蔵」という。峰辻から右に行く道（峰道）はドライブウェイの下をトンネルで潜り、比叡山横川中堂へ到る。左は昔からの八瀬から峰辻を超えて横川中堂への参祠道である。大原街道の登山口バス停に降りるが、今では利用者が少なく荒れ気味の道で注意して歩きたい。





標識北山 13 横高山

トレイルコースは峰辻の地藏さまの背後を登る。木の根の段々道で踏跡が何本もあるが、つま先登りの急坂を攀じると横高山山頂である。横高山は京都市内からみると水井山と重なり、きれいな三角の双尾峰として望め双子山とも言う。特に展望も無く標識北山 13 が建っているだけであるが、静かで休憩、昼食には最適地である。ここでコースは東北に 90 度右折する。



水井山への登り

鞍部までは木立の中の緩い下りで、標識北山 15 から再び急坂の水井山の登りとなる。近年に鞍部から水井山頂上をバイパスして、標識北山 16-2 下部まで作業道が拓かれたが、立ち入り禁止なので注意したい。緊急の場合には標識北山 16-2 下の作業道はドライブウェイに通じているので覚えておくと良い。「水井山 (794.1m 三等三角点) は以前から眺望が無かったが、台風の倒木処理のお陰で琵琶湖の展望が少し良くなった。



水井山頂上

水井山の標識北山 16-1 から、仰木峠までは急坂を交えた下りが続き、標識北山 16-2 から 16-3、16-4 が誘導してくれるが、積雪期は踏跡が判りにくく、特に西方面及び北方面への支尾根に迷い込まないように注意したい。



標識北山 16-2 林道

標識北山 16-2 下の作業道は国地院地図には記載されていないが、横川中堂途中の奥比叡ドライブウェイに降りるので、緊急時のエスケープルートとして覚えておくと良い。「横川中堂」バス停まで約 1km である。但し、比叡山シャトルバスは冬季には運休するので注意。ドライブウェイも冬季は 18:00 にはゲートが閉鎖される。



標識北山 17 横川分岐

次いで急坂途中の杉の植林の中の標識北山 17 で、東海自然歩道が横川中堂方面に分岐する。横川へは一旦深い谷へ下り、ドライブウェイを越え横川中堂駐車場へ登り返すが、段差の大きい階段が続く道だ。

仰木峠の手前の植林の水平道は、植林が幼木の頃は疑似木の柵越に琵琶湖の展望が抜群であったが、近年は植林が成長し薄暗くて展望も無く、名残の柵が何故こんな所にといい感じで残っている。



標識北山 18 仰木峠

仰木峠標識北山 18 は近江仰木の里と大原の里を結ぶ古くから開けた峠で、牛若丸も鞍馬から金売り吉次に伴われ、仰木峠を超えて奥州に下ったという伝説もある。現在、仰木峠には滋賀県側から峠近くまで林道が来ている。

仰木峠から尾根を直進すると、新しく整備された「比良比叡トレイルコース」。小野山 670m を経て大尾山 (梶山) 581.4m に到る。大尾山からは音無滝を経て大原三千院にも降れるが、沢筋は悪路である。



標識 19 ポーイスカウト道降口



標識北山 21 の橋



惟喬親王の墓



旧若狭街道案内標識



林道分岐標識北山 22

仰木峠から 10 分程京都側に下ると、標識北山 19 の東海自然歩道とトレイルコースの分岐である。トレイルコースのルートはボーイスカウト道とも言い、植林の中の急坂であるが比較的歩き易い道である。

標識北山 19 を直進する東海自然歩道は、元三大師道といい古来の大原から仰木峠への道である。しかし、分岐点では良い道に見えるが、最近では整備されたものの中間は悪路である。

急坂のボーイスカウト道を下ると沢筋に標識北山 20 を見る。次に整備された丸木橋を渡ると標識北山 21 がある。周辺は湿潤な環境で、早くも橋の一部が腐食してきており、「山ヒル」の被害報告も多いので留意。ここからは林道となるが路面は荒れているので注意して歩こう。

林道の谷がやや開けた地点に、右に水路の蓋の上に行くような小道が分岐する。すぐに害獣防御フェンスがあり、その先に苔むした惟喬親王墓への石段がある。なお、惟喬親王墓には、この分岐から少し林道を下り、林道脇にある「旧若狭街道」案内標識から、向かいの沢を渡り、小さな堰を越えて踏跡を登れば、害獣防御フェンスの処で先の分岐路と合流する。いずれも 5 分とかからない。静かな樹下の墓域で、時間があれば是非立ち寄りたい。

『惟喬親王：平安時代の文徳天王の王子で、皇位継承に破れ山々を放浪された経緯から、山村の人々の崇敬を受け木地師の祖としても伝えている。北山にはあちこちに惟喬親王にまつわる伝承が多い。』

前年まで路傍に「旧若狭街道」の案内標識が表示されていた。その先が林道の入口で害獣防御フェンスの通用口を開けて通過する。通過後は必ず鎖錠することに留意したい。

墓地分岐の標識北山 22 を右折すると、戸寺地区の公民館で庭先に新しいトイレが整備された。地区の方が管理されており、志納金を入れて使用させて頂こう。公民館駐車場先の標識北山 23 を右折し舗装路の坂を下る。

戸寺バス停は坂を降りきり大原街道に出た左手にある。街道の向かい側、坂道降り口の郵便ポストと並んで標識北山 24 及びトレイル地図付き案内板が建っている。

戸寺バス停前、大原街道沿いの「味工房 志野」は、ちょっと寄り道の価値あり「大原の餅つき隊」の餅等々、地元産の色々な美味しいものが並んでいる。

「所要時間参考」

ケーブル比叡駅標識北山 1 (40 分← →35 分) ドライブウェイ歩道橋標識北山 6 (25 分← →20 分)
釈迦堂標識北山 9-2 (40 分← →40 分) 玉体杉 (10 分← →5 分) 峰辻標識北山 12 (10 分← →15 分)
横高山標識北山 13 (25 分← →25 分) 水井山標識北山 16-1 (60 分← →40 分) 仰木峠標識北山 18
(20 分← →15 分) ボーイスカウト道分岐標識北山 19 (60 分← →45 分) 大原戸寺標識北山 24
《ケーブル比叡駅標識北山 1 (4 時間 50 分← →4 時間) 大原戸寺標識北山 24 (9・8 km)》

※比叡山の公共交通機関は、坂本ケーブル・ドライブウェイ以外は冬季運航休止に付き注意。

比叡山公共交通機関冬季営業状況			
施設	運休期間	運行時間	
八瀬・叡山ケーブル	正月3賀日翌日～3月19日		
比叡山坂本ケーブル	年中無休	8時～17時	
比叡山内シャトルバス	12月7日～3月19日		
京都駅・堅田駅～山頂	12月7日～3月19日		
奥比叡ドライブウェイ	年中無休(3月1日～11月30日)	7時～22時	
々	年中無休(12月1日～2月末日)	7時～18時	
※ https://www.kojak.co.jp/uploads/hieizan-shuttlebus-jikoku2026.pdf			

ケーブル比叡～大原戸寺間のトレイルコース記載の地図は「京都一周トレイル 北山東部」です。

地図販売所に関するお問合せ、その他京都一周トレイルに関するお問合せは
京都市産業観光局 観光 MICE 推進室 (TEL075-746-2255)

kanko.city.kyoto.lg.jp/trail/ 京都一周トレイル-京都観光 Navi を参照してください